



学校だより

わかあゆ

矢祭町立東館小学校

平成25年12月13日(金)

校長 吉田和賀子

矢祭町交流会

6日に矢祭町の6年生が石井小学校の体育館に集まり交流学習会を実施しました。この交流会には、福島大学の森本 明先生と先生のゼミに所属している学生の皆さんに毎年参加していただいておりますが、今年も森本先生と8名の学生さんが参加してくださいました。

第1部は、森本先生と学生さんから、図形問題を出していただきました。子どもたちの解答はとても発想豊かで、個人や班でいろいろな解き方を考えることができました。第2部は、班で矢祭町に関する問題や、私立中学の入試問題や200マス計算対決などに挑戦しました。第3部は、班対抗ドッチビー大会を行い交流を深めました。

矢祭町内の6年生全員が顔を合わせ、一緒に活動することで、4月から中学校での生活をスタートさせる子どもたちにとって、とても素晴らしい経験になりました。



(矢祭町青少年の主張最優秀賞作品)

バトンでつないだ心の絆

6年 ○ ○ ○ ○

「やったあ、決勝進出だ。」
それは私にとって、まるで夢のようなことでした。郡陸上競技大会で、私達リレーメンバーが目指していたことは、予選突破。そして決勝進出。そうです、見事目標達成です。

これまで私達は、暑い中、様々な練習に取り組んできました。その中で、私が一番辛かった練習は、校庭を一周走ってからのバトンパスです。足がもつれ、バトンが渡せず、くやしくて泣いた時もありました。そんな時、メンバーの〇〇さんが、

「どうしたの。大丈夫。」
と声をかけてくれました。私はとても嬉しくて、また頑張ろうという気持ちになりました。それらの辛い練習を乗り越え、私達は大会本番、なんと、予選を第一位で通過することができたのです。

しかし、私達が決勝でも頑張ろうと、盛り上がっていたそのとき、信じられないことを聞いたのです。それは、「メンバーの一人である〇〇さんが、百メートル走に出場したとき転んで腕にけがをし、病院に行った。」というのです。「もし、骨が折れていたり、ひびが入っていたりしたら、決勝には出られない。」と。「えっ。信じられない。」私はただただ、驚くことしかできませんでした。四人でつかんだ決勝進出。それなのに、決勝は四人で走ることができないなんて、絶対にいやです。「もし、〇〇さんが決勝に出られなかったら、私達が今まで頑張ってきたことは何のためだったのだろう…。」

その時、先生の携帯に連絡が入り、やはり〇〇さんは、腕にひびが入っていて、決勝で走ることができないと聞きました。しかし、その後すぐに先生が言いました。

「代わりに〇〇さんに走ってもらうからね。」私の心は複雑でした。四人で練習することが多かったため、補欠の〇〇さんとはバトンパスの練習をほとんどしていません。しかも、〇〇さんは第三走者。だから、〇〇さんは、私からバトンを受け取って、アンカーの〇〇さんにバトンを渡さなければならないのです。「バトンはうまく渡るのだろうか。でも〇〇さんが走ってくれれば、決勝には出られる。入賞の可能性もある。それに、あきらめてしまったら、けがをした〇〇さんだってくやしいにちがいない。」私は、「とにかくバトンを

つなげよう。みんなのためにやるしかない。」と思いました。〇〇さんは、

「私、あまり練習してないし…。」
と、すごく不安そうでした。

「大丈夫。バトンだけつながればいいよ。」
決勝までの時間は数分しかありません。私達は集中して練習しました。応援に来ていたお父さんやお母さんたちも、〇〇さんに「大丈夫。がんばって。」

と、声をかけていました。〇〇さんも腕に包帯をまいたまま、心配そうに見ています。

いよいよスタート。私は、〇〇さんからバトンを受け取り、必死で走りました。

「はい。」
バトンパス成功。「〇〇ちゃん、バトンを〇〇ちゃんにつなげて。」私はそう祈っていました。〇〇さんへバトンが渡り、ゴール。結果は、なんと第二位。「やったあ。」本当に本当にうれしくてたまりませんでした。

私は、プレッシャーに負けず、みんなの思いを背負って走ってくれた〇〇さんに感謝します。みんなで勝ち取った二位は、私にとってとても素敵な賞です。みんなで頑張ってきて、本当によかったと思いました。私達がここまで頑張ることができたのは、仲間や家族、先生方の温かい励ましがあったからです。私はこれからも、自分を支えてくれる人達がいることを忘れずに、いろいろなことに挑戦していきたいと思います。困難を乗り越え、私達が必死につないだものの、それは、バトンに込められた、仲間との心の絆です。

20日(金)の日程

20日は、第2学期終業式のため
下校時刻が早くなります。

- ☆ 短縮日課の5校時です。
- ☆ 給食があります。
- ☆ 13:50頃一斉下校します。

下校後、事故のない生活を送ることができるようをお願いいたします。